

祝 発 会 三 週 年

皆 様 の

# 東 調 布 信 用 金 庫

本 店 東 京 都 大 田 区 調 布 大 塚 町 725 番 地  
支 店 長 原、千 鳥 町、大 森、碑 文 谷、田 園 調 布

祝 発 会 三 週 年

自 動 娛 楽 器 械 及 び 宣 伝 用 自 動 機 械 設 計 製 作

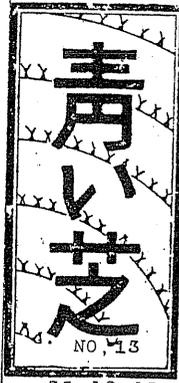
# 山 北 ロ ボ ッ ト 研 究 所

東 京 都 大 田 区 雪 ケ 谷 町 752 番 地  
電 話 (781) 5 0 9 4 番



風邪なら  
いますぐ  
強力 GURUCHIN  
総合感冒錠  
塩野義製薬株式会社

毎月十五日発行



## 三 週 年 記 念 大 会 開 く !!

快晴にめぐまれた十一月三日、もはや恒例となった青い芝の記念大会(今年三周年)が東京新宿の淀橋保健所講堂において盛大に開かれた。集った会員は約七〇名、その他関係者が三〇名前後。大会に先立って親の会の総会が行われ、引き続き大会に移った。宇田川氏の「開会の辞」に始まり、金沢(英)氏がこの一年間の経過報告を行い、岡本氏の会計報告、次いで新役員の出出にうつしたが、この間和田氏より役員選出の方法に関する動議が提出されたが大会後に善処するとの事で保留された。運出の結果、新年度役員に山北会長以下九名が決まり今後一年間、会運営の重責を担うこととなった。(役員氏名、分担任別記) そのあと山北新会長の挨拶があり(別掲)・来賓の中原先生(労働省)、金井先生(編物協会)、福永先生(都身

### 大 会 宣 言

私たちは、全国に数少ない脳性マヒ者(一日も早く皆安心して暮らして行ける社会にするため、益々一致団結して事に当ることを誓うと共に、政府に対して、重度及び中度障害者の生活保障対策を早急に立てることを強く要望する。

少休の後才二部に入り、本会顧問山本浩先生の「青い芝の会に望むこと」と題する講演と、朝日新聞厚生文化事業団提供による劇映画「天と地を駆ける男」が上映され、無事散会した。朝日新聞の阪本先生より祝電を大会中に頂いた。尚大会の模様は後日NHK、文化放送で放送、朝日新聞東京版(11月4日)報道された。

発 行 所 大 田 区 雪 ケ 谷 七 五 二 (山 北 方)  
印 刷 所 青 い 芝 の 会 中 野 区 本 町 通 六 ノ 一 四  
編 集 責 任 者 尾 堀 元 英

三シユウエンオメドウトウ」ネヲハリ、タクマシクノビテ、ザツソウガハエナイヨウニ、テヲツナイデユクコトヲイノツテイマス」  
サカモト

貴会の結成三周年をお祝いし、併せて今後の御発展をお祈りしてやみません。同じ目的を持ち、精神を同じくするものとして、今後一層よく連携し合つて脳性マヒ者、ひいては、社会の福祉のために活動していきましょう。  
お互いに頑張りましょう  
十一月三日  
脳性マヒ者の集い  
ひかりの会

### 新 役 員 の 顔 ぶ れ

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 会 長               | 山 北 厚             |
| 副 会 長             | (更 生 兼 務) 戸 次 星 野 |
| 総 務 部             | 柳 下 明 之           |
| 計 算 部             | 高 山 英 児           |
| 教 養 部             | 金 沢 久 子           |
| 報 告 部             | 尾 堀 元 英           |
| 生 活 部             | 中 村 一 徹           |
| レ ク リ エ ー シ ョ ン 部 | 沢 田 扶 左 子         |
|                   | 四 登 和 良           |



昭三四年十一月三日 東京淀橋保健所講堂にて二周年記念大会開く。会員及び関係者あわせて約七十人参加。  
 十一月十日 塾へ未就学過年児の問題について日本短波放送より取材にくる。  
 十一月十五日 三年目初役員会。三年目の主活動案を定める。1. O.P.の実態調査  
 2. 組織固め 3. 会員の更生を図る  
 十二月二日 「青い芝」親の会」に対し、NHK歳末助け合い義援金二万円を交付される。  
 昭三五年一月十五日 千葉県の身障者懇談会に本会からも出席を求められ、石橋戸次両氏出席。  
 一月十六日 賛助会員と話し合う会  
 一月十七日 都内各支部新年会  
 二月二十日 塾の子供すもう見物  
 二月二十日 賛助会員との話し合い才二回目。後援会を作る話出る。  
 四月一日 アメリカからの資料によつて「脳性マヒ児教育の手助け」をほん訳出版。  
 四月十七日 才五回レクリエーションで狭山湖へ。  
 四月二十六日 日本橋三越の身障者手工芸品展示即売会に本会も参加  
 六月十一、十二日 愛の運動東京都協議

会との共催で衣料のバザー  
 七月二五―二八日 才三回青い芝キャンプ。今まで一番参加人数多く男女あわせて二一名。そして初めて全然お手伝いなしで行なう。  
 八月十六日 海上保安協会の高久氏と東海汽船の御厚意により、会の子供たち東京港一周(船で)  
 九月五日 ラジオ東京で本会の事が取り上げられる  
 九月十三日 会員の村上君と佐久間さんテレビ結婚  
 九月十七日 才六回レクリエーション、バスで都内見学  
 十月八日 ライオンズクラブのバザーに参加  
 十月六日 山北会長、大笠間さん、結婚式 (編集部註)  
 左記の方々よりご寄附金を頂きました厚く御礼申し上げます。(願不同)

城西支部だより  
 初冬の節になりましたが、支部の皆さん如何に暮しておられますか。御風邪をひかないようになさって下さい。  
 支部長の石橋君も元気でいろいろな計画を立て、やつておられたり、こんど光明学校の副幹事長になりましたので、多忙な日々を送っております。  
 田村君は厚生センターでギブスをやっております。来年の四月には養鶏所が完成になるので、その計画にまい進している。役員はおやめになりました。  
 田村君の代りに、支部の役員は古俣さんに、本部は私にやれるか出来ないかわかりませんが、やらせて頂く事になりましたので、皆さんの御協力をくれぐれも御願致します。  
 Xマスとバザーの計画をやっておりますので、その節には多くの方々に参加下さいます様お願い致します。(中村徹一)

特別寄稿 人並に生きる

木村 浩子

それは私達O.P.者のみではなく身体に障害をもつ誰でもが思い悩む事だと思えます。私達は皆同じ様に喜怒哀楽を感じませぬ。当然生を受けている限り人間には欲望を取除く事は出来なく。健全者には健全者の、また身障者は身障者にと、れぞれ同じ物ではないにしても皆持つて居ります。  
 生きるという願い。云い変れば働きたいと云う望みは健全者とはともかく身障者が望むのも当然の事でしょう。人は働いている姿が一番美しいと云われ、又一心に働いている時がその人にとつて最も幸せな時だと思えます。でもその人間としての望みも現在の身障者、特に私達O.P.者には殆んど得られない状態なのです。例え一部分の者が更生を目指し県立や市立の職業指導所に入れたとしても、そこで養成される職業の数は少く大半が小さな手先の仕事で、よそO.P.者には適さない為それを生かせる支えとして続けて行く事はとても苦難な事です。私の知っている人の中でも十中の九迄の人(余程軽度な人でない限り)が皆逆戻りをし失望に追いやられて居ます。ここで私は痛切に願う事はO.P.者にも盲人があんまマツ

サーシ業は彼等のみの仕事として行く様にO.P.者病状に最も適切な何かを私達だけの仕事と定めて欲しいのです。障害年金の増額も時として叫ばれている様ですが年金より働く事を考えねばなりません。一定の職業をO.P.者のみの物とするのなら就職は勿論自営も安易と考えられます。現在のまゝで万一就職出来たとしても生存競争の激しいスピード強化の今日、どうして健全者と同じ様に働けましょう。本人は精一杯働いても健全者には劣るのです。従つて上達は望めず生来人間の下のびのびとした自由な生活は出来ない訳です。こうして考えてみると如何に働くかという事が重大な問題だか分ります。分れば分る程私は先に述べました「一つの職業をO.P.者のみのもの」と云う事の重要性を強く感じるのです。現に私は二年前に生きる為には何かをしなればと云う思いから県立の指導所に入所致しました。科目は編物科で幸いに編物は好きでしたので足ながら精一杯の努力を重ね、また先生のたゆみない力添えによりどうにか普通のセーター位は編む事が出来る様になりました。けれど生きる支えとしてはとても速力の点で考えられない仕事と分り、私はタイプを打つ事に気がきました。前々から文字を書くのに時間がかかる私はタイプにあこがれていた為でもありましようけれど早速賛助

会員のHさんに伴われ、あるタイプリスト養成所に入所しました。編物に比べタイプは動作もきまり活字の位置を覚えれば後は間違ひなく打つ事でも私には興味深く感じ夢中で現在続けて居り今後が出来ればタイプだけはしたい考えですが何しろ足の為、望めば望む程私には苦難は数多くなるばかりです。運良く人並に打つ事が出来たとしても足ではおそらく就職は不可能でしょう。私は多少でもまけば片手で打てない訳ではなく、タイプが案外O.P.者に適してはいないかと思えます。でもこの考えは単なる私の小さな経験だけのもので一口には申せませんが……天は私達に何かの形で「働き」を与えられて居るはずで、少くとも私はそう信じて居ります。手足が不能であっても頭でまた心で働く事が出来、手足の一部分でも可能な所があれば、それをフルに活用しなければならぬと思えます。またそうする事によつて仕合せも自分のものにする事が出来るのではないのでしょうか。何一つ行ないしは凡て、自分のみの考えや力では成し得ない私達です。幸福になりたいと云う共通の願いを目的として、もつと積極的な行動をとる為、組織を固める必要があると思えます。そして少しでも皆んなの力で、自分達のハンデキャップを減らしましょう



